



編集・発行：高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク

(ネットワーク各ブロック代表の連絡先等、裏表紙に記載しています)

事務局：国際文化フォーラム内 (163-0726 東京都新宿区西新宿 2-7-1 新宿第一生命ビル26F)

1999年に設立された高等学校韓国朝鮮語教育ネットワークは、2000年を通じて東日本、西日本、南日本の3地域ブロックごとの定例会を中心に活動してきました。定例会と並んでプロジェクト活動も盛んです。東日本ブロックの交流基本語彙選定と西日本ブロックの学習のめやす作成プロジェクトの中間報告が8月の研修会で発表され、全国の参加者からコメントをいただきました。

本紙10ページに、交流基本語彙プロジェクトの要旨を紹介しています。

全国ネットとしての連帯感

昨年8月には、駐日韓国文化院と国際文化フォーラムの支援を受けて、第3回高等学校韓国語教師研修会を東京八王子市の大学セミナーハウスで開催。準備段階から会期中の議事進行まで、ネットワークの東日本ブロック中心に運営が行われました。大学関係者を含む65名が参加、一部プログラムに韓国の高校で日本語を教える教員が合流して盛り上がりを見せました。

本年は、8月の天理大学と神田外語大学の免許法認定講座に参加する会員が多いと予想されるため、11月下旬に1泊2日で全国ブロック交流会の実施を検討しています。詳細は各ブロック代表にお問い合わせください。

免許法認定講習の実施に向けて

昨年3月に教員免許状に関するプロジェクトがネットワーク内に発足しました。8月までに教員免許状をめぐる現状の問題点を収集・整理、韓国朝鮮語の現職教員

が外国語(韓国語・朝鮮語)の免許状を取得するための方策を模索しました。

昨年8月の全国研修会に続いて、ネットワークのブロック代表ほかプロジェクトメンバーが、研修会と同じ会場で教員免許状に関する会議を開催。約20名の参加者(中国語教育の関係者を含む)が熱い議論を交わしました。1泊2日の会議を通じて、天理大学の朝鮮語免許取得のための認定講習に向けて関係者に働きかけていくことが合意されました。

その後、天理大学と神田外語大学に認定講習の実施について要望し、二つの大学で本年夏の開講に向けて準備していただいております。天理大学の認定講習の概要を本紙の裏表紙に掲載しています。

ムルキョル No. 2 の目次

西日本ブロックの活動	2
東日本ブロックの活動	2
南日本ブロックの活動	4
東日本ブロックのメーリングリスト	5
高等学校の韓国朝鮮語教育を担う教員たち	6
センター試験への朝鮮語導入	8
高校生のための『語彙集』作り	10
鹿児島東高校：韓国語会話の卒業生たち	11
高等学校における韓国朝鮮語教育の可能性	16
東北とく朝鮮とわたし	25
高等学校の韓国朝鮮語教育ネットワーク会則	27
天理大学朝鮮語科教員免許取得講座	28
ネットワーク各ブロックの代表と会費振込み先	28

■西日本ブロックの活動

方政雄（兵庫県立湊川高等学校）

西日本ブロックは1999年8月の高等学校韓国朝鮮語教育ネットワークの結成以後、2ヶ月に1回の割合で交流会を持っています。参加者は常時20名前後と定着してきています。次の文は、第1回ブロック交流会の案内文からの引用です。現在に至る西日本ブロックの特徴とその活動内容を言い表していると思います。

ブロック交流会：定例会場は阪南高校、()内は回数

1999年10月9日(1)、12月12日(2)

2000年2月26日(3)、4月30日(4)、6月18日(5)、
8月19日(6)[東京]、10月28-29日(7)[神戸]、12月
17日(8)、2001年3月10日(9 予定)

西日本ブロックの特徴と活動内容

……定まった共通教科書も授業時数に対する『めやす』もなく、教授法も個人的な経験や他の教科をまねた授業で、それを深めるよりどころも、すべもありませんでした。ただ使命感にも似た想いだけが、この授業を支えてきたように思っています。

……「学ぶ価値のない言葉」として、ややもすると生徒に疎まれ、敬遠されることもありました。また同僚の教師たちからも時として理解されず、孤独感におそわれたり、やりきれない思いにかられることもありました。しかし今、全国の200近い高校で韓国朝鮮語の授業が開設されています。

……韓国朝鮮語が隣国の当たり前のことばとして、今その位置を築き始めようとしています。西日本ブロックは韓国朝鮮語授業の開講の歴史も古く、また開講校も多いところですが……韓国朝鮮語を学ぶことを通して、文化理解や隣国・隣人理解を深めることも大切にしたいと思っています……交流を深め、研修を積み、韓国朝鮮語の教育内容を更に充実したいと考えています。

授業実践交流と学習のめやす作り

この間、交流会は2つの柱を中心に展開してきました。1つは「授業実践交流」です。報告者が自分の授

業を公開するのです。模擬授業であったり、指導法や教材研究であったりします。参加者は生徒の立場になったり、授業者としての自分と比較をしたりで、明日からでも実践的に使えるものを得ることが多くあります。授業者間の切磋琢磨と良質の授業内容の共有化がはかられるので、有益です。昨年末までに14名が報告しました。

もう1つは「学習のめやす」の作成です。これは研究チーム(5名)を中心とする西日本ブロックの課題として、2001年度も継続していきます。

全国ネットのなかの西日本ブロック

交流会で心がけているのは、全国ネットの中のブロックであるという視点を忘れないことです。交流会の中では必ず全国ネットの動きを伝えるようにしています。

会員間の親睦を図ること(一杯飲むこと?!)も大切なことだと思っています。昨年10月には、国際文化フォーラムの助成を得て、神戸で1泊2日の研修を行いました。まとまった時間がとれ、「韓国朝鮮語の教授法、指導法について」の講演会と質疑応答、討議や「ハンダに関するコンピュータ操作法」の実践研修を専門の講師を招いて研修を深め、また親睦をはかりました。

大阪外国語大学や天理大学で朝鮮語を学んでいる現役の学生が常時参加し、スタッフのように会場の準備等も手伝ってもらい、熱心に私たちの交流会を支えてくれていることは嬉しい限りです。私たちの励みにもなります。次世代につなぐという意味でも大切にしていきたいと思っています。

■東日本ブロックの活動

山下 誠（神奈川県立岸根高等学校教諭）

ブロック交流会：定例会場はフォーラム、()内は回数

1999年10月9日(1)、2000年1月22日(2)、3月26日(3)、5月21日(4)、7月24日(5)、8月19日(6)、10月7日(7)[山梨県塩山市]、12月19日(8)、2001年2月10日(9)[横浜市野島]、5月12日(10 予定)

定例会場は国際文化フォーラム

ネットワークの持つ勢い

東日本ブロックが産声を上げて1年半。今振り返ってみますと、「あれ?まだそれしか経っていないの?」と錯覚するほどに、充実した会になったように思います。そうですね、とても荒削りなだけで、その分“勢い”があつて、“普通だったらできないことも、何だかできそうな気がしてくる”、そんな場になったとでもいいでしょうか。

東日本ブロックの活動

東日本ブロックの活動のポイントは、①授業研究、②教材作り、③韓国朝鮮語授業の拡大、④生徒参加の行事の4点です。

- ① 授業研究:各自の個性を生かした授業実践例から、お互いに学ぶところが大きく、韓国朝鮮語教育の足腰を強化させる活動といえましょう。
- ② 教材づくり:高校生という対象に特化した、またきわめて限られた時間の中で最大限の効果をあげることができる、そんな教材を作ろうと、「わ一通じたハンゲンマル」プロジェクトを運営しています(注1)。
- ③ 韓国朝鮮語授業の拡大:関東付近に韓国朝鮮語の実施校がそれほど多くないということもあり、また、講座はあっても選択者が少なく開講できないケースも多いことから、韓国朝鮮語授業を拡大し、また実体化させる方策を考えることは、私たちにとってとても難しい課題です(注2)。
- ④ 生徒参加の行事:せっかく習った言葉を「つかって、通じて、うれしい!」と思ってもらえたら……そういう達成感を持ってもらいたいというのは、多くの先生方の願いであるはず。個人の方では持てないそんな機会を設けられるのも、ネットワークあつてのことです。

日韓の高校生交流

上記④の手はじめとして、3月10-11日に東京韓国学園の韓国人高校生といっしょに、韓国語を生活言語として1泊2日をすごすという交流ワークショップを企画しています……最初は「えーっ、そんなのできるわけない!」としり込みしていた生徒たちも、今ではすっかりその気になった様子。彼らは、きっと「ハミョン テンダ」と笑いながら帰っていくことでしょう(注3)。

あそこにも仲間がいる!

東日本ブロックの会員は各地に分散しているので、遠隔地のメンバーとのネットワークづくりを重視しています。2ヶ月に一度の定期集會に、常時、山梨、長野から参加があり、その熱意たるや、感服至極です。また、岩手、山形の会員ともメールなどを通じて随時連絡があり、関東以東・北海道までが守備範囲という広域ブロックではありますが、「あそこにも仲間がいる!」という一体感が、会員の大きな支えになり、またエネルギー源になっているようです。

深める活動と広げる活動

授業研究や教材づくりのように“深める活動”と、韓国朝鮮語授業に関する広報やメンバー間のネットワーキングという“広げる活動”。この2本のベクトルのあいだの相互作用こそが、私たちの活動を活性化してくれているのではないかと、そう考えています。

さあ、2001年、どんなことができるのが、どんな出会いがあるのか、とてもわくわくしてきました!

注1:1年間(50時間)韓国朝鮮語を学んだ生徒が韓国朝鮮語を母語とする高校生たちと交流することを想定した、“場面限定の実践的な語彙集”のこと。まずは、2001年度中にかたちにすることを目指して、今仕上げにかかっています。来年度の授業でつかいながら、内容を手直していく予定です。今後は、読み書きに重点を置いたものなど、さまざまな観点の教材も開発すべきだと考えています。

注2:韓国朝鮮語の魅力をより多くの人にわかってもらえるような、リーフレットづくりを考えています。また、現在は高校で授業をもつてはいないが、これから先そういう場をもちたいという会員がずいぶん増えていて、東日本ブロックの潜在力は、そういう意味でかなりのものがあるのではないかと思います。

注3:日韓文化交流基金の協力:この企画、メンバーから構想が持ち上がったのとほぼ時を同じくして、日韓文化交流基金から交流行事の打診があり、結局日韓文化交流基金の主催事業とすることができました。財政支援もあるので遠隔地の学校からも参加できます。

チャンスというのは、「求めよ、さらば与えられん!」だなあと、つくづく感じます。

■南日本ブロックの活動

馬場純二（熊本県立菊池農業高等学校教諭）

南日本ブロックは、東は鳥取県から西は沖縄県まで、大変広い地域にまたがっているため、ブロック研修会をいろいろな地域に移動して開催することで、それぞれの地域に近い人たちが参加しやすい態勢を作ってきた。

2000年の研修会：()内は回数

- 2月9-10日(1) 熊本県 菊池農業高等学校
東日本と西日本のブロック代表が全員参加した。
- 6月18日(2) 福岡県 博多青松高等学校
- 8月19日(3) 東京都 大学セミナーハウス
- 9月23-24日(4) 広島県 江田島青年の家
- 12月9-10日(5) 佐賀県 波戸岬少年自然の家

研修のテーマ

研修会で交わされたテーマは次のとおりである。授業法に関わるやり取りは他のブロックと共通するが、コンピュータやインターネットを使った学習の研究は南日本ブロック独自のものになっている。

- ・授業研究
- ・楽しみながら学べる授業法の研究
折り紙教材、音楽教材の紹介等
- ・授業導入の方法研究
- ・定期考査の問題づくり研究
- ・発音や文法事項の確認
- ・コンピュータの活用法の研究
- ・コンピュータを使った単語学習
特に文字構成の研究
- ・インターネット、E-mailの接続講習
- ・コンピュータを使用する際の文字化け防止の講習
- ・教員免許認定講習の打ち合わせ
- ・日頃の悩み相談
- ・韓国朝鮮語基礎学力到達度試験の作成研究

持続的な学習意欲を

研修会には毎回10-20名が参加している。研修会では、いかにして生徒の学習意欲を持続するかという点

が、毎回中心テーマとなっている。唐津商業の尹先生が毎回行う、“韓国の幼児用学習教材を使って行う楽しい授業法”もその一つで、みな楽しみにしている。

悩みの相談で盛り上がり

南ブロックは遠方からの参加者も多いため、宿泊研修として行うことが多い。夜の研修（懇親会）では、日頃の学校内での人間関係等、誰にも話せなかった悩みの相談で盛り上がり、参加者の癒しの場となっている。この相談で「復活」していった先生も数多い。

参加者に共通する悩みの一つが、学習到達度の測定に関するものだ。次に述べるような、“生徒らにいかにか持続的な学習意欲を喚起するか”という論議の中から「韓国朝鮮語基礎学力到達度試験（仮称）」の提案がなされた。

もっと気楽に学習到達度を測りたい

現在行われている二つの検定試験（韓国語能力試験とハングル能力検定試験）は難易度が高すぎて、1年間の終わりに受験することは難しい状況にある。“もっと気楽に自分らの学習到達度を測る試験があつて良いのではないか。それをネットワークあるいは南日本ブロックが到達度を認め、賞状や認定証を発行すれば、生徒らも俄然やる気が出てくるのではないか”という考えから、2001年度の研修の柱に位置づけたいという方向で意見がまとまっている。

ステップを小さくして、より多くの生徒らが、自分の到達度を測れるようにする取り組みは、とりまおさず、教科書づくりにもつながる動きでもある。ホームページで問題等を公開し、より多くの人に参加してもらえようという準備を進めている。

各学校独自の取り組み

この他、各学校独自に次の活動を行っている。

- ・韓国語童話朗読会

南日本ブロック後援という形で拡大・定着させたい

- ・日韓学生交流会

ホームステイの取り組みや感想を各学校で交流

- ・文化祭、授業風景等のビデオ撮影

他校とのビデオ交換交流

■ 東日本ブロックのメーリングリスト

武井 一（東京都立日比谷高等学校ほか講師）

東日本ブロック(B)の活動で際だっているものにメーリングリスト(ML)の活用がある。現在、東日本Bの会員が参加しているMLは3種類あり、全国の3ブロックを結ぶ kjt@egroups.co.jp を含めると、各会員が3ないし4種類のMLに参加している。

ストーブのまわりのおしゃべり

東日本Bでは、2000年1月の交流会直後から同報メールで連絡を取ってきた。同報メールを立ち上げた山下誠先生は、「2ヶ月に1度の会合だけでは“語りきれない”こともあると思いますので、とりあえず、“ストーブのまわりに集まっておしゃべりする”ような気持ちで、この場をつかって自由に情報交換できたらと思います」と、同報メール立ち上げの趣旨を書いていた。

同報メールには運用上さまざまな問題点があることが次第にわかり、3月の交流会でML化することとなり、武井が管理者として運用するようになった。参加者は、原則として会費を納入した会員ということにした。

全国ブロックのML連結と多角化

MLを運用しているうちに、他Bとの連携問題がでてきた。ネットワーク全体で共有したい内容が数多く発信されていたからだ。南日本と東日本BのMLを試験的につなぎ（後に西日本Bが参加）、8月初旬から実施された。

だが、二つのブロックでMLの使い方に差があること、各B独自の連絡に支障をきたすこと等が指摘され、全国大会を期に東と南の連結は一旦解消し、新たに3地域を結ぶML (kjt@egroups.co.jp) をつくることとした。

一方、東日本Bのプロジェクト「わー、通じたハンゲンマル」に関する議論を新しいMLに移行させることとなり、10月から実施された。さらに事務局のMLが12月の交流会を期に立ち上げられた。東日本B全体のMLの件数だけで、本年2月に1,000通を超えた。1日で10通を超える日もあり、「ストーブのまわりに集まっておしゃべりする」という趣旨は実現できている。発信量だけでなく、MLにアクセスする人も比較的多い。

多岐にわたるメールの内容

交流会や免許の認定講習のように直接ネットワーク運営にかかわる連絡のみならず、地名の語源論、旅行記、授業での生徒のようす、歴史談義、ウィルス問題、朝鮮学校との交流、韓国の日本語教科書に載せたい日本の歌、韓国の音楽と琉球音楽、日本民謡など、テーマはさまざまな分野に及んでいる。やり取りは、<http://ar1.easymail.com/MLarchive> を開き、メールアドレス欄に eastjapan@c2.easymail.com と打てば閲覧できる。

このように活発な理由の一つはメンバーの活動分野が多岐にわたっていることにある。教科も社会、英語、国語、中国語、韓国語とわかれ、また高校のみならず、大学で教えている教員もおり、学校以外でさまざまな活動をしている人が多い。そのために、関心分野も広くなるのではなかろうか。

MLに参加していない人との関係

もともと大きな課題はMLに参加している人と参加していない人との関係である。事務的な連絡は郵送でも可能であるが、それ以外のテーマについてMLで取り交わされる情報を、MLに参加していない人に伝えるのは、さほど容易ではない。一時期MLの編集も考えたが、さまざまな事情から困難なことがわかった。この情報格差を埋める方策を至急考える必要がある。

参加者の範囲とメールの内容

次に、参加者の範囲の問題である。会員以外の参加をどこまで認めるか、誰の承認で認めるかについては議論の余地があろう。内容の問題もある。私的な話と公的な連絡事項を同一のMLでやるべきか否かという問題だが、これは参加者の範囲とリンクして考えられる面もある。私的な関係ならば「顔の見える関係」でメンバーを組んだ方がよいし、公的な関係ならばより広い範囲をメンバーとすることができるからである。

ウィルスをはじめとする、さまざまなトラブルについての対処も考えなければならない。このような問題点を解決しつつ、東日本BのMLがさらに発展すること、さらには各ブロックでもMLを通じて活発に意見が交換される場をつくることを願ってやまない。

■韓国朝鮮語教育を担う教員たち：

南日本ブロック会員たちの思い

馬場純二（熊本県立菊池農業高等学校教諭）

高等学校韓国朝鮮語教育ネットワークの南日本ブロック会員が所属する高等学校63校の中で、韓国朝鮮語を担当する教員の免許状の種類が確認されているのは、約半数の32校である（他教科の免許状を持つ教諭の掛け持ち5校、非常勤講師27校）。

高等学校の外国語（朝鮮語・韓国語）の一種または専修免許状を持つ者が担当している学校は1校もない（かつて韓国朝鮮語を教えていて、現在は英語だけ教えている教諭が他に2名いる）。

以下、高校で韓国朝鮮語を担当する教員について、

(1) 韓国朝鮮語に興味を持ち、独習した日本人、(2) 仕事や結婚等で日本に来て在住している韓国人、(3) 民族学級等で韓国朝鮮語を習い、教えている在日、(4) 韓国からの留学生の4種類に分けて考えてみた。

この中で、(4)の留学生は教員免許にほとんど関心がなく、調査にもなかなか応じてもらえない。何年か後には韓国に帰ると思っているし、当座の生活費を稼ぐためのアルバイト程度にしか考えていないからだ。彼らの多くは教員免許の問題を切実に考えることがない。

菊池農業高校の試み

韓国朝鮮語をある程度できる教諭はいるが、朝鮮語・韓国語の教員免許を持つ者はいない。97年に「韓国語会話」を1年生全員に導入することを決定した際、教員免許状の保有者がいないことについて、熊本県教育委員会と何度も話し合いを持ったという。

最終的には「朝鮮語の免許を持つ者がいない」という理由で、「修得単位」として認められる正規の授業とする案は見送りとなり、クラブ活動の時間に類した扱いの「学校裁量の時間」として導入された経緯がある。

実際に時間割の中に組み込まれ、普通の授業を行っているにもかかわらず、単位として認められない。その代わりに、免許状を持たない者が授業しても（講師を雇う予算措置もない以上、そうせざるを得ない）問題にはならないという解釈である。

臨時免許状の制約

熊本県教委の臨時免許状発行をめぐる見解は、当時「授業は正規の免許状を持つ者が行うのが筋であり、臨時免許状はあくまでも正規の免許状を取得するまでの移行措置、あるいは正規の免許状を持つ者を採用するまでの緊急避難的な措置」というものだったという。

他の地方自治体もほぼ同じ見解であり、臨時免許状の発行を受けること自体、さほど容易ではない。臨時免許状の更新を1回または2回に制限する自治体もある。臨時免許状が発行されたとしても、朝鮮語・韓国語の教員免許状取得に必要な単位を修得できる大学は全国に5大学しかなく（2000年度現在）、現職教員が本免許状取得に必要な科目を履修するのは難しい。

不安定な非常勤講師の身分

非常勤講師のほとんどは複数の高校または大学の講師であり、社会人相手の夜間講座の講師を兼任していることも多い。免許状を取得するためには、全国5大学いずれかに学部生として入学するか、科目等履修生として授業に参加するしかないが、生計を維持しながら大学に通うことは、実際上ほとんど不可能である。

朝鮮語・韓国語の免許状を持つことは、非常勤講師という不安定な身分を改善し、高校に韓国朝鮮語の授業を普及する一助になると思われる。講師または教諭として高校で韓国朝鮮語授業を担当できる可能性が広がることは間違いないからだ。

免許状を持つ教員が必要な理由

一つの学校に韓国朝鮮語担当の常勤教員がいるかないかによって、生徒の学習熱に大きな差ができてしまう傾向が強い。生徒たちが求めているのは知的好奇心の充足であり、未知のものに触れる欲求に応えなければならない。生徒たちの隣国のことばに対する興味を持続させる上で、朝鮮語・韓国語の免許状を持つ教員が常時学校にいたことが好ましい。また、学校内の他教科の教職員から韓国朝鮮語講座に対する理解と協力を得やすくし、講座を推進、継続する力にもなる。

センター入試に韓国朝鮮語が導入され、総合的な学習の時間で国際理解学習が取り入れられ始めると、韓

国朝鮮語やその文化に対する学習熱も高まってくると思われる。一方で、これらの学習を担当する教員の不足が解消されないならば、この学習熱も一過性のブームとして終わりがねない。

このような観点からも、高校で韓国朝鮮語を教えている現職教員（他教科の免許状を持つ者が主たる対象）が認定講習を受けることによって、朝鮮語・韓国語の免許状を取得することが、高校における韓国朝鮮語教育を拡充することにつながると考えている。

現職教員に研修の機会を

担当教員たちは、韓国朝鮮語の授業を担当していながら、正規課程で系統立った韓国朝鮮語を学んでいないという意識を常に抱えている。教授法すら学んでいない者が教壇に立って韓国朝鮮語を教えていいのか、という自責の念に近いものを払拭できないからだ。実際、高校教員ネットワークの研修会等で出会う先生ごとに、同じ思いを漏らしている。

ネットワークは、個々の先生がそれぞれ工夫してきた授業内容を共有し、暗闇の中を手探りで歩いてきた互いの実践を確認するために結成されたといってもよい。教員たちは皆、自分の授業のやり方でよいのだろうかという不安を抱えていた。

認定講習は、そんな教員たちの要望を基に、現職教員の再研修の機会として企画されたものであった。大学とのつながりも認定講習だけで終わるのではなく、それを入り口として現職研修の場としての大学と相互交流を図りたいという願望に支えられている。

認定講習の実施を願う

教員自らが研鑽を積み、そこで学んだものを生徒たちに還元したいという思いが、認定講習を要望する教員の思いの根底にある。時間的・経済的に許されるなら大学に入って勉強したいのだが、現実にはそれを許さない。

韓国朝鮮語教育に理解を示してくださる某高校の校長先生は、「本来なら研修として学校が費用を負担し、研修期間中の授業措置も手だてするのが理想であろうが、実際にはそうはいかない。だが、夏期休業中に集中講座で講習会が開けるのなら、その間サービスを研修で送り出

すという時間的な措置を講ずることはできる」とおっしゃった。理解のある校長がいる高校の場合でも、この程度が学校として対応できる限界であろう。さまざまな制約の中にあつて、現職教員が大学に編入して勉強するのは、ほとんど不可能に近いのである。

在日の思い

民族学級・民族学校等で韓国朝鮮語を学んだり、自己のアイデンティティーを獲得していく過程の中で韓国朝鮮語に惹かれて目覚め、韓国の大学に留学したり、韓国で韓国語指導者講習を終了したりした在日二世・三世が、現在、高校の教壇に立って高校生たちに韓国朝鮮語を教えている。

だが、これらの経歴は、日本で教員資格の一部として認定されることは難しく、臨時免許状（助教諭資格）の取得に際してもさまざまな制約が付き、助教諭であるため採用後も活動が制限されている。

在日の生徒たちに、まず韓国朝鮮語と出会う場を提供したい、そしてアイデンティティー獲得の一助となって欲しい。多くの日本人の生徒たちに、韓国朝鮮語の面白さ・素晴らしさを、在日の立場から伝えたいのだ。

韓国朝鮮語の免許状を取得したいという教員の思いは、正教諭として教壇に立つことで、「がんばれば教員になれる」という在日の生徒たちの思いにもつながる。その先鞭をつけたいという思いからも、在日の教員たちは認定講習を希望している。

24単位の持つ重み

認定講習の実施に関して、現在朝鮮語の免許を取得している方の一部に「大学の学部学生の学習量に比べて僅かの時間で教員免許が取れるのはおかしい」という声があると聞く。大学の正規課程で何年もかかって教員免許状を取得された方の反応として理解できなくはない（注1）。確かに「僅か」24単位かもしれない（注2）。だが、その24単位を取得するための時間を創り出す労力と思いは、決して「僅か」ではない。24単位分の時間すら創り出せずに悔しい思いをしている教員が全国に数多くいる。高校の韓国朝鮮語授業を支えているのは、そんな思いを抱く教員たちなのである。

注1: 2001年の夏休み期間から集中講義方式の免許状認定講習の実施を予定している天理大学と神田外語大学の計画によれば、所要単位数を履修するのに2-3年かかる見通しである。

注2: 韓国朝鮮語以外の教科の高校一種または専修教員免許状を持つ教員が、韓国語・朝鮮語の免許状を取得するために必要な単位数の合計が24単位である(韓国語・朝鮮語の語学、文学、コミュニケーション、教科指導法などの科目を履修しなければならない)。

■ センター試験への朝鮮語導入

任 喜久子 (大阪府立阪南高等学校教諭)

昨年9月、大学のセンター入試科目に朝鮮語が導入されることが新聞・テレビ等を通じて発表された。現在、センター入試で実施されている英語以外の外国語科目はドイツ語・フランス語・中国語の3科目で、そこへ2002年ないし2003年1月から朝鮮語が新たに加わることになった。

[本稿では、筆者の原稿にしたがって「朝鮮語」とした]

第2 外国語で3番目に多い言語

高校で英語以外の外国語教育に取り組んでいるのは、私立・公立を含めて全国で1番多いのが中国語、2番目がフランス語、3番目が——あまり知られていないようだが——実は、朝鮮語(名称はさまざま)である。

特に80年代・90年代から外国語教育の多様化、国際理解教育の広がりとともに急速に増加し、99年度現在で165校となっている(第4位はドイツ語の97校)。こうしてみると、大学のセンター入試科目に朝鮮語が導入されることは、まったく当然のことであり、まさに機は熟していたといっても過言ではない。

トップダウンの導入

今回の決定の経緯に、金大中大統領訪日以降の日韓新時代の幕開けといわれる政治的背景が大きく影響していることは言うまでもない。確かにいくつかの教育現

場や団体から、特に大阪では「朝鮮語をセンター入試の受験科目に」という要望が出ていたが、残念ながら全国的な教育現場からの要求とはなりえていなかった。

他方、日韓高校生交流をはじめとする新たなパートナー育成などの日韓共同事業とともに、韓国側にはまだ賛否両論が並存しているにもかかわらず、日本文化の開放を決定した。それに対応する日本側の政策の一つとして、「朝鮮語のセンター入試導入」がほぼトップダウンという形で決定されたように思われる。

「ふうん」「すごいやん」

日本の英語教育が「受験英語」と呼ばれて、ややもすると批判を受けてきたことから考えて、朝鮮語が受験科目になることで何らかの足かせが生じることは、ある程度予測される。しかし、現在の朝鮮語教育を取り巻く状況を考えると、センター入試への導入はやはり評価できる部分の方が大きいといえる。

何よりもまず、日本社会全体に朝鮮語が「学習対象」の「外国語」の一つとして認められることに、大きく寄与するだろうということである。いったいどういうこと(?)と思われる方もいると思うが、一般には未だに朝鮮語は「外国語」として意識されていないのである。

「何で勉強してるのん?」と未だに素朴な疑問をぶつけられることがある。今では、むしろこういうときこそチャンスとばかり、いろいろ話題提供できるようになったが、どのレベルの学習者であっても周囲から「ふうん」という反応ではなく、「すごいやん」と言われたいのではないだろうか。そういう意味で、学習者でない市井の人々の意識——生徒の保護者の意識であり、生徒の祖父母、生徒のバイト先・将来の職場の人々の意識——に与える影響は非常に大きい。それだけでも意義があると思われる。

民族学校出身生徒の喜び

民族学校出身の生徒にとっては、非常に喜ばしいことであると思われる。まだまだ排外的な状況が残る日本社会の中で民族教育を受けた彼らは、母国のことばを学習するのに二重三重の負担を強いられている。

その経済的な負担と教育環境を保証する大変さは、なかなか世間に知られていないが、その子供たちの学習努

力の一部が進路にも役立てられることは、朝鮮語がセンター入試に導入される一つの大きなメリットと言えるだろう。

日本の高校の学習者

日本の高校の学習者の立場にたっても、熱心に学習した結果が、進路や受験にも役立つ可能性があるということは、大きな学習の動機付けになりうる。

朝鮮語授業選択生徒の動機を聞いてみると、これまでは、「韓国やハングルに興味がある」「韓国に行ってみたい」「在日の友達がいる」「祖母や祖父がしゃべれるから」「新しいことを習いたい」「面白そう」などが大半を占めていた。進路や受験に役立つという意見は、ほとんど聞かれなかった。

中国語の方が有利か

朝鮮語の授業を取りたいと思いつながら選択しない生徒、あまり薦めない保護者や教職員の中には、どうも受験や進路に有利でないというより、「不利そう」という「思い込み」があるように見受けられる。

どうせ選択するなら、中国語の方が将来の就職等に「有利」と考えている人があるように見受けられる。中国語を選択し、学習すること自体は非常によいことであり、好ましいことである。でも、朝鮮語より中国語の方が有利だと、果たして本当に言えるとは思われない。

新しい世界や価値観との出会い

語学の学習者が、その語学を生かして就職するという例は、残念ながら極めてまれである。語学を生かして就職するためには、どんな言語であっても、かなりのスペシャリストを目指さなければならず、そのために相当の「訓練」が必要である。

語学学習の本当の意義は新しい世界との出会い、新しい価値観との出会い、さまざまな人間との交流から生まれる自分自身の成長や変化にこそあると思われる。こういう意味で考えると、(やや宣伝っぽくなるが)近くに存在しながらあまり意識されてこなかった朝鮮語の学習はまさにぴったりだと思われる。

ともかく、最初の学習の動機付けとなるものが、たくさんあるに越したことはないのである。

外国語科目の受験レベル

もっと現実的に見てみると、朝鮮語が教えられている高校の授業単位数は全国的に見てばらつきがあり、1単位から19単位の間にわたっている。そのうち2～4単位の高校が半数以上を占めている。

センター入試での英語以外の外国語科目の受験レベルは中学校卒業程度とよく言われるが、実際どれぐらいのレベルなのだろうか。ちなみに、中国語でセンター入試を受験する受験生がいる高校は毎年15校ぐらいだそうで、そのうちの10校近くが10単位以上の中国語授業をカリキュラムに組んでいるという。

つまり、中学卒業程度の語学力を高校の授業で保証するには10単位以上というのがめやす(?)といえそうだが、非常に厳しい数値である。

大阪府立高校の現状

ほとんどが2～4単位の授業で、多くは入門・初級レベルである。ハングルの学習・あいさつ・自己紹介・簡単な会話・文化歴史の紹介等、語学教育や国際理解教育、人権教育的な内容だと聞いている。

たとえ少ない授業時数であっても、担当者の努力等によって語学教育の本来の意義を十分果たしていると思われるが、センター入試レベルに達しようとするなら、(在籍する生徒の状況によっても異なるだろうが)少なくとも6～8単位以上の授業プラス補習、プラス本人の不断の努力が必要であろう。学校の授業だけで入試勉強を保証することは非常に難しい。

受験者に対するサポート

府立高校にはさまざまな生徒が豊かに存在している。また、朝鮮語が日本語と非常に近い関係にあり、初中級レベルでは文法・語彙等の学習がしやすく、自学習も可能な言語であることを考えると、府立高校生から受験者が出てくることも充分予想される。

彼らにどれぐらいの情報を伝え、どんなサポートを提供できるかが、府立高校教員の課題であろう。また、センター入試受験後に、どれぐらいの大学が科目指定してくるかも非常に重要な問題である。今後の動きが注目されると同時に、私たち高校教員の課題の一つでもある。

■ 高校生のための『語彙集』作り

ネットワーク東日本ブロック
交流語彙プロジェクトチーム

高等学校において第2外国語の1つとして実施されている韓国朝鮮語の教科には、他の教科と違い学習指導要領もなければ、高校生向けの教科書もありません。多くの場合、市販の語学テキストを教科書としていますが、最初からやるとなかなか先に進めません。結果的に韓国語を勉強した達成感、到達感を感じられず、徒労感しか残らない教員、生徒がかなり多いのが実状です。

プロジェクトの発足

1年間韓国語を勉強して、つまらなかったという記憶しか残らないのでは、教える立場として寂しいことです。そんな悩みを抱える教員が集まり、教材などを手掛ける第一段階として、まず、『語彙集』を作ることにしました。

私たちが作ろうとしているのは一つの『語彙集』ですが、みなさんが考える「語彙集」や「基礎語彙」ではありません。市販されている語彙集はさまざまなことに対応できるように、いろいろな言葉が載せられています。しかし、私たちの『語彙集』は、あらゆることに対応できることを想定していません。

2単位50時間のなかで

高等学校の韓国朝鮮語の講座数は年々増加する傾向にあります。しかし、受講する生徒の数はそれほど多くありません。また、授業時間もほとんど確保できません。普通の科目と違い、生徒が履修するかしないかを自由に決められる選択科目だからです。

そのために、多くの高等学校が放課後の7・8時間目に連続授業として設定しているのです。学校行事や短縮授業などでつぶれると、休業期間でもないのに、1ヶ月も授業ができないこともあります。多くの学校が採用している週2単位の授業は、年間70時間の授業が基本となっていますが、実際は年間50時間がやっとです。

この範囲で覚えることができる量に限っています。と同時に、この授業の目標点として作られています。

会話に限定した語彙

もちろん、読む・書く・聴く・話すの4要素にまたがる語彙を抽出することが理想なのですが、年間50時間ですべてを教えることは困難です。

私たちは、あえて語彙を会話に限定するという「冒険」をすることにしました。これだけの語彙数でも会話をしたら「通じた」という体験が、今後の学習意欲につながると考えたのです。1年間勉強した結果、この「通じた」という到達感を持てるように考えられています。

高校生どうしの交流

会話にもさまざまな場面が考えられます。そこで、韓国朝鮮語を母語とする高校生とそれを学習した日本の高校生が交流する場面を想定し、そこで必要と思われる語彙を選んでみました。交流の場所は特定していません。日本にある韓国学園や朝鮮学校の生徒と出会って話すことなども考えられます。

すぐに使える形で

『語彙集』に出てくる語彙は、すぐ使えることを想定しているため、用言は原形を使わないで活用形で示すことにしました。また、熟語として使われるものは、その組み合わせを一つの「語彙」として考えました。このような「語彙」を提示した後に関連する例文を示しています。

教科書ではありません

『語彙集』は、教科書や教材として作られたものではありません。したがって、これ自体を使って教えることは想定していません。教科書なら必ず考慮すべき文法的な段階を十分踏まえていないのも、高校授業が直面している制約のなかで使われる「語彙集」だからです。

『語彙集』は、韓国朝鮮語教育に携わるネットワーク会員の共同作業によって作られています。試作品ができ上がった段階で、ネットワークの会員に配布する予定です。

高校の韓国朝鮮語授業の現場に即したご意見やご批判を多くのみなさんからいただき、改訂作業を重ねていきたいと考えています。

鹿児島東高校：韓国語会話の卒業生たち

山下敏裕（鹿児島県立鹿児島東高等学校教諭）

鹿児島東高校の国際教養科では、1999年に2年次（2単位、19人）、2000年度に3年次（3単位、10人）を対象に「韓国語会話」の授業を実施しました。指導者は山下およびキム・ウルス（99年度）とキム・ミヨン（2000年度）でした。

以下に掲載するのは、その卒業生10名の感想文です。



福森智保

□福岡国際大学へ進学

この2年間どうもありがとうございました。とても楽しかったです。今2年前の自分を思い出すと、韓国語の授業が大嫌いだったことを思い出します。最初、韓国語を選択した理由が、蔵元先生がおっしゃった「韓国語は覚えれば簡単だよ」という一言でした。

でも、韓国語を勉強し始めの頃、蔵元先生が言った「簡単だよ」という文字は一文字もないほど、わけのわからない状態で、半分以上あきらめモードに入っていました。読むこともできず、みんなの後をどうにかついていく状態で、韓国語なんか嫌だ一と思っていました。

3年に上がる時、韓国語を勉強し続けようか、本当に迷いました。今も韓国に文通をしている友達がいるのですが、その友達は毎回日本語で返事をくれるのですが、迷っていた時、文通している友達のことを考えてみると、日本語をがんばって勉強している友達に悪い気がして、3年になっても続けようと決心したのです。

その決意を決めたことは、間違っただけでなかったと思います。韓国語を少しでも読むことができるようになったからです。そのきっかけは、3年1学期のテストだったと思います。自分でも驚くような点をとった時、かなりうれしかったこと、今でも覚えています。

福岡国際大学へ行くことが決まり、第2外国語として韓国語を選択できるようになっています。一から再び勉強し、いつか韓国へ行きたいです。この前、金先生に

福岡に行くことを報告したら「福岡は韓国にも近いし、韓国人もたくさんいるからいい所よ。私もよく行くし、いつか逢おうね」とおっしゃってくださいました。県外へ行くという心細さもあつたけれど、金先生の言葉で、楽しみへと変わりました。今よりもちよつと韓国語がうまくなってから、鹿児島へ帰ってきたいと思うので、その日まで……。アンニョンヒ ケセヨ〜。ト・マンナヨ〜。今まで本当にありがとうございました。韓国のことたくさん知ることができて、本当に嬉しかったです。



前木場さやか

□県内短大へ進学

□ホームステイ家族

2年の時、初めてハングル文字を見て、これは何かの暗号じゃないのかと正直思いました。でも 아 が「あ」と読むのだとか、가 が「か」と読むのだとか覚えていくうちに、私の中で韓国語が一番好きな教科になっていました。今まで知らなかった言葉を覚えていくのは、とても楽しいものでした。

最初はあいさつの言葉すらわからなかったのに、今では教科書に書いてあるハングル文字はだいたい読めるようになりました。3年生の後半からは、日記も短いけれど自分たちの力で書けるようになってとてもうれしかったです。

私が韓国語を習った中で一番の思い出は、やっぱりチヒョンが自分の家にホームステイに来たことです。ゆきちゃんは英語が出来るからコミュニケーションをとることができると思ったけど、私は英語がとても苦手なので、下手な韓国語と英語でどれだけ通じるかすごく不安でした。

でも辞典をひいたり、ジェスチャーや絵を書いたりしながら、なんとかコミュニケーションをとることができて、ほんとにうれしかったです。私の家には2日間しか泊まらなかったけど、日本の焼き肉を食べに行ったり、韓国のことをいろいろ聞くことができて、とてもとてもよい経験になりました。今度は韓国に行きたいです!!

短大に韓国語がないので学校では勉強できないけど、

この2年間学んできたことを無駄にしないように、自分で勉強を続けたいと思います。本当にハングル大好きです。2年間ありがとうございました。



徳留有紀

- 県立短大へ進学
- 姉妹校公式訪問
- ホームステイ家族

私はこの2年間、韓国語を学び本当にさまざまな経験をすることができた。韓国語を学んだということだけでなく、授業ではチマ・チョゴリを着たり、音楽を聞いたり、歴史について少し学んだり、と韓国の文化や歴史も知ることができた。本当に楽しかった。

思い出すととてもなつかしいが、2年生の頃「ア、ヤ、オ、ヨ……」などと声に出して練習したり、「カナダラマバサ……」などと自転車に乗りながら歌っていた日々が本当に最近のように感じる。それからもう2年が過ぎ、自分で言うのも変だが、とても上達したと思う。山下先生はきっと「まだまだ」と言うのでしょうか……。

私には何よりも忘れられない経験がある。それは5月に行った韓国姉妹校訪問である。私はここで一生に一度の貴重な体験をできたと思大変うれしく思っている。今から先、韓国に行くことは簡単だが、高校の代表として訪問できたことは幸せなことだと思う。まなちゃんと食べたプルコギもおいしかったし。

そして今年の1月向こうで出会い、一緒に遊んだ友達のうち3人が東高校に来てくれた。今度会える日はいつなのだろう……と思っていた私は、本当にうれしかった。私の家と前木場さんのうちに泊まったチュ・チヒョンとも、私はできるだけ韓国語で会話(?)をした。最初にくらべると間違いをおそれることなく、習った単語や辞書で引いた単語を文にして話すことができた。

これは私の中でかなりの進歩だと思う。これから私は英語を勉強するのですが、韓国語もずっと続けていこうと思う。そして韓国で出会った友達とこれからもメールや手紙で交流していこうと思う。いつかまた、이지현 の家

にホームステイしに行こう!!

山下先生、二人の金先生には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この恩は、わたしが韓国語ペラペラになることで返したいと思います。それまで楽しみにしてくださいね。



新屋香奈

- 就職

国際教養科に入って良かったなと私が思うことは、やはり、英語はもちろん、ここで韓国語を学べたことです。ただ勉強をするだけではなく、ビデオを見たり、CDを聞いたり、山下先生とキム先生の話の聞いたり、いろいろな形でこの2年間、私たちは韓国の文化や歴史、衣食住などの情報に触れることができました。

その中でも私が一番関心を持ったのは、韓国と日本の間における歴史です。韓国併合から約90年(?)。韓国と北朝鮮の分裂に、私たち日本人が大きく関わっていることを知りました。時代が移りゆく今日でも、まだ日本人を許せない人々がいるでしょう。言葉にはできないショックがありました。未来の平和のために(話が大きすぎますけど)、これからの朝鮮半島の明るい未来のために、私たち日本人がこの歴史から目をそらさずに、より良い交流を深めていけたら良いです。

そのためには、私たちが今行っているようなメール交換など、一人一人との交流を大切にすることが大事だと思います。そして歴史を知ること。韓国語の授業を通して、私はさまざまなことを学びました。私は国際教養科として、ここで韓国について触れることができたことを心から誇りに思います。せっかくここまで学んできたので、これからも勉強を続けていこうと思います。先は長いですが、未来の平和のために楽しんでやっていきたいです。

韓国語の授業は少人数なところがやりやすかったです。記号のような文字を読めるようになり、授業も楽しかったです。2年間本当にありがとうございました。



立和田麻奈
熊本学園大学へ進学
姉妹校公式訪問

2年生の時、初めて韓国語を勉強して、へえ〜って思うことばかりでした。ハングル文字を最初見たときは、こんなの文字じゃないとか、読めるのかな〜とすごく不思議で、魔法のような文字に見えました。

でも今となっては、読みだけは韓国人には負けません！(発音は別として)また授業の中で、韓国の音楽番組やニュースなどを見ることができて、すごく楽しいでした。やっぱり一番おもしろかったのは「シュリ」を見たことです。日本ではまだシュリの「シ」の字も出てこないときに一足早く見られたし、内容もまたせつなくて、ちょっと過激で、すごく印象深い映画でした。ますます韓国のとりことなりました。

韓国語を2年間勉強して一番自分のためになったこと、思い出になったこと、刺激を受けたこと、私の人生を変えたことは、やっぱり何と言っても韓国を訪れたことです。全然上手じゃないけど、授業で習った会話や単語を使ってみようと思うとなかなか言えなかったり、意味が分かってもらえなかったりして、自分の勉強不足をちょっと反省しました。

キメカヤ高校の生徒は日本語を勉強している生徒もおり、とても上手でした。私は韓国語を勉強して1年半くらいの段階でてんでこまだったのに、私よりはるかに少ない時間しか日本語を勉強していない生徒たちが、とても流暢に話していました。私はその日本語に頼ってばかりでした。本当に見習うべき所がたくさんありました。先生も生徒も家族も本当にみんなよくしてくれて、韓国人の優しさにまた感動しました。こんな機会を与えてくれた山下先生に感謝です。

私は英語で生きていこうと決めて、国際教養科に入学したし、その後も英語関係の方面に進めたらなあと思っていました。しかし、韓国の言語・文化・人々に直接触れて、すっかりとりこになってしまいました。今後

も大学で一生懸命韓国について勉強して、いつか韓国に留学とかできたらなあと思います。今のままで大丈夫かなあ?!と少し心配ではあるけど、がんばるつもりです。

私の人生を変えたこの韓国語の授業は本当に感動的なものになりました!!! あと、メールとかの仕方も教えてもらい、今から役に立つことが学べて本当によかったです。

なかなかいい成績は取れなかったけど、韓国語を選択してよかったです。先生には授業はもちろん、小論文を見てもらったりして、いろいろお世話になりました。2年間ありがとうございました。きっと、韓国のことならおまかせ麻奈!!になるので、よろしくお願いします。たぶん、将来は韓国人と結婚して韓国に住んでると思うので、その時は遊びに来てください。



坂元こずえ
就職

一番最初の授業で、ハングルが組み合わせられてできていることを知って、読むだけなら「あー、簡単そうよ良かった」と思ってたけど、意味を覚えていないとダメだなあと、しばらくたってから気づいたことを思い出しました。

授業は、文法よりも会話中心の授業だったことがよかったですと思います。また韓国の歌番組やドラマなどを見ることができて、おもしろくてよかったですと思います。でも2年間も韓国語を学んだわりには、私の韓国語の力はそんなについていないような気がして、少し残念に思います。

韓国に姉妹校ができたことで、両方の学校から生徒が訪問できて交流できたことがとてもよかったですと思います。メール相手にプレゼントをあげたり、もらったりしたことや、メール交換でいろんなことを話したりして、韓国の私たちと同世代の子がどんな風なのかが知れて、けっこう楽しかったです。メール交換ももっとひんぱんにしておけばよかったなあ、少し後悔しています。

キム先生の韓国のお話はとてもおもしろいものが多く、(日本人より日本語が早口で)たまに聞き取れないことも

あったけど、授業の中でとても充実していたと思います。
卒業後、韓国に行く機会があることを楽しみにしているところですよ。



上野真理
□県内短大へ進学

韓国語を勉強してもう2年がたち、でも2年も勉強したわりにはまだまだだと思います。2年間の中で、教科書で学んだこと、TVやビデオを通して学んだこと、パソコンで学んだことなど、韓国の文化にも少しだけかま知れませんが、ふれることができました。私は日本という国が大好きです。でも日本の文化をあまり知りません。政治のことも良くわかりません。他の国の文化や言語などを勉強しながら、自分の国のことをもっと知らなくては、と思いました。そういう風に思えることがとってもいいことだと思います。

初めころは全然読めなかったハングル文字も今では読めるようになったし、知っている単語も増えてきました。せっかくここまでできたのに、やめてしまうのは本当にもったいないと思います。私は短大へ入学しても、英語や韓国語の勉強を続けていきたいです。子供達にいろんな言葉を教えてあげたいです。これからは先生方に教わることができなくなってしまうので、今よりもっとがんばらないと成長しないと思うので、がんばっていききたいです。

韓国映画「シュリ」はとても印象に残っています。今では南北が少しずつ歩み寄り、北の人々が少しでもよい生活を送れればと思いました。

この学校は本当にすばらしいと思います。がんばれば外国へ行くチャンスがいっぱいあります。そして外国の生徒とも接することができます。韓国から来た高校生を見て、上手に日本語を話していることにとても驚きました。難しい単語も知っていて、もっとがんばろうという刺激になりました。韓国語を勉強することができて本当によかったと思います。



徳田妙子
□専門学校へ進学

1年の冬、第2外国語の選択の時、韓国語は日本語と文法が同じだと聞いて、他の外国語よりかは簡単だろうという思いで選択した。ところが、いざ、韓国語を学んでみると、ハングル文字は何がどうなってるのかわかんないし、文法は同じでも、単語を覚えるのが大変で、ちっとも簡単ではなかった。でも本当にちょっとずつだけど、何回も同じ会話をさせられたりするうちに自然と覚えていっている自分がうれしかった。

2年の最後の方では「シュリ」も見られて、すごくおもしろかった。全部が韓国語で時々先生が訳をしてくれたのと、映像だけで意味のわからない所がほとんどだったけど、最後には切なくてとても感動した。3年に上がるとき、「英語一般」にするか、このまま韓国語を続けるか、本当に悩んだ。ギリギリまで悩んで、キム・ウルス先生の「もったいないよー」の一言で続けることにした。

3年になるとインターネット室での授業になった。そしてキム・ウルス先生のかわりに、キム・ミヨン先生が新しく来た。キム・ミヨン先生はかわいくて、とっても大スキだ。インターネットを使って、姉妹校とのメールのやりとりもした。でも私には一回も来なくてさみしかった。見るたびに来ていないので、もうだんだん確認することもしなくなった。こっちからメールを送ってみればよかった、と今になって思う。

青色の教科書から黄色?の教科書にかわって、またさらにむずかしくなってきた。私にはいっぱいいっぱいだった。隣にすわっている麻奈はすらすらと読めるのに、私はどうしても時間がかかってしまう。同じ数だけ授業を受けてきたのにこの差は何なんでしょう!! って感じだった。でも私なりに、ゆっくりだけど、意味はわかんなくても教科書を読めるようになってきたことだけでも、立派な進歩だと思う。2年の時にやめないでよかった。

他の高校では決して学べない韓国語を学べて本当によかった。韓国語だけでなく、韓国の文化・歴史も学ぶことができた。これから先、お金と時間に余裕ができれば、どこかの韓国語講座でも受けてみようと思う。2年間いろいろお世話になりました。



浪瀬麻祐
□県内短大へ進学

初めての授業の時、見慣れない文字で、読み方すら全くわからなかったもので、これでこの先ついていけるか、とても心配していました。でも読み方を覚えると簡単な字はスラスラ読めるようになりました。また初めて出てきた単語もある程度読めるようになっていたので、とても楽しくなりました。文法も同じで、読み方も似ている単語が多いので、とても勉強しやすかったです。

先生から韓国についての話を聞くのもとても楽しいでした。授業はほとんど教科書ばかりで、たまにはビデオも見たいなと思ったときもあったけど、それはそれで身に付いたことが少しでも増えたので良かったです。

私はここまで韓国語ができるようになるとは思っていませんでした。山下先生、そして二人の金先生のおかげだと思っています。2年間はとても早く、もう少し勉強してもっとたくさんの単語や文法を勉強したかったです。

これまで学んだことを忘れないように、韓国の映画や韓国語講座のテレビを見たり、たまには教科書を開いて勉強していけたらいいです。東高校だからこそ学べた韓国語なので、これからも何らかの形で韓国語にかかわっていけたらいいです。2年間いろいろありましたが、ありがとうございました。いい思い出ができました。



迫由美恵
□県内大学へ進学
□中国引揚者子女

韓国語を始めたころは読み方もわからなくて泣きそうでした。1回目のテストで赤点をとったことがとても印象的でした。前の金先生がゆっくり読んでくれたり、説明してくれたおかげで、なんとか韓国語に入門し始めたのです。心からの感謝の気持ちでいっぱいです。

授業中に山下先生が持ってきたビデオを見るのが、毎回毎回の授業の楽しみだったです。私は映画「シュリ」がとても好きです。国のためにそこまでする姿がすごいと思いました。私も思わず涙を流したことがありました。

左手の小指にマイクを結び、右手に扇子を持った韓国人の女性歌手がとても好きでした。いかにも韓国人の味わいが出ていました。

今の金先生になって、彼女の明るい笑顔でクラスをとても明るくしてくれました。きれいな韓国語についていくのが精一杯でした。山下先生は国語の先生で、説明がとてもわかりやすかったです。丁寧に教えてくれたおかげで、今は韓国語をすらすらと読めるようになりました。とても楽しかった思い出ばかりです。

きつかったことも悲しかったことも、みんないい思い出になりました。これから私は国際大に進みます。第2外国語は韓国語にし、よりいっそうがんばっていきたいと思います。2年間本当にありがとうございました。

国際文化フォーラムの機関紙(No. 48、2000年10月発行)が特集「隣国のことばに魅せられた教師と生徒たち」を組んでおり、高校教育のなかの韓国朝鮮語を概観するとともに、ネットワーク会員4名の授業のようすをまとめています。

入手ご希望の方は、メールまたはファックスで国際文化フォーラム宛にお申し込みください。

e-mail. forum@tjf.or.jp fax. 03-5322-5215

■高等学校における

韓国朝鮮語教育の可能性

山下 誠 (神奈川県立岸根高等学校教諭)

[以下に掲載するのは、帝塚山学院大学国際理解研究所主催の第26回国際理解教育賞に応募された論文です。]

晩夏の日差しが激しく降り注ぐ外界と窓一枚隔てた室内は、その窓に映る光景がまるで一葉の絵でもあるかのように清涼であった。しかし、そこに集まった人々のあいだには、その暑さをも溶かし込んでしまうほどの、熱いものが行き交っていた。それは、そこに集う教師たちの胸に去来する、四半世紀にわたる韓国朝鮮語の学びの営なみの記憶であった。

その日初めて会した全国の韓国朝鮮語教師たちは、長い孤軍奮闘の日々に思いを馳せながら、「もう、ひとりではない」と感じていた。その熱い昂ぶりは、やがて冷静な確信に変わり、1年後には高等学校韓国朝鮮語教育ネットワークというかたちに結実した。本稿は、そこに集まった教師たちが積み上げてきた成果をとおして、後期中等教育における韓国朝鮮語教育の意義を再確認し、そのさらなる可能性を探ることを目的とする。

1 高等学校における韓国朝鮮語教育のあゆみ

1973年に始まる高等学校の韓国朝鮮語教育が、30年の歳月を経て、今日全国約180の学校に拡大するに至る経過を、簡単にふりかえりたい[1973年度から79年度までの開設校は6校、80年から84年が2校、以後5年ごとに89年までが10校、94年度までが41校、99年までが65校である]。

①黎明期 1973年以降、80年代前半までは、広島・兵庫、それに大阪・東京に限られて、学校数も少なかったが、在日韓国朝鮮人の多住地域において、偏見と差別の克服をめざした教師たちが未開の大地を切り開いた、「人権教育型」である。

②拡大期 80年代後半に入ると、地域的な広がりを見せ始める。この時期の開設校は、いずれも韓国の高校との姉妹校締結や、それにとまなう生徒の往来を伴う交流を契機に、言葉を学ぶ授業を開設した「日韓交流

型」である。

③成長期 90年代にはいると、一挙に全国にひろがっていく。異文化理解の一分野として、隣国の言語教育が注目されたのであった。これを「国際理解型」とする。

④深化期 90年代後半になると、外国語学科のなかに韓国語コースをもうけるなど、文化理解のための、いわゆる教養としての語学教育ではなく、一定水準の言語運用能力の獲得を追求する試みもなされるようになった。「語学教育型」と呼んでおく。

韓国朝鮮語教育は、導入の主たる契機と年代によって、このように四つの類型化が可能であるが、実際の授業は、これら要素が混ざりあって展開されているのはいうまでもない。

2 韓国朝鮮語教育の現況

前節で見たとおり、高校における韓国朝鮮語教育は、確実に定着しつつある。しかし一方で、韓国朝鮮語は学習指導要領上は、「その他外国語に関する科目」として実施が認められたものに過ぎないため、これを取り巻く環境は、大変不安定なもの事実である。

まず、2単位1年間の選択授業が大半を占め、複数年にわたって、また4単位以上履修する例は少ない[履修単位数2単位の学校が、63校中30校]。2単位年間授業時数50時間は、決して十分とはいえない。

また、選択科目であることによって、生徒が学習に対して積極的な動機をもちうる反面、学習者の総数は少なくなり、年度によって希望者数が選択授業の開講基準に満たず、開講されないこともある。

特に、非常勤講師の比率が高い[担当教師の職名別は、101名中、講師が60名である]。このため、専任としては採用されにくい在日と新渡日をふくめた韓国籍・朝鮮籍の教師が教壇に立つことができるなどのメリットがある反面、科目選択のためのガイダンスの機会が平等には保障されず、それがゆえに年度によって選択者数が激しく左右されるなど、専任教師集団の適切な援助がなければ、その熱意も無に帰してしまう恐れがある。

学校としての制度的支援、他の教師の精神的理解が必須である。第2外国語を、仏、独を含めて3科目のなかから選択し、3年間計6単位履修するA高校でも、

韓国朝鮮語の希望は、例年40名中数名であり、第3希望者を含めてようやく充足する状態だった。しかし、2000年度は、第1希望だけで10数名の講座が開講できたという。

教員(岩手): 私は英語の担当ですが、これからは、英語以外に、西洋言語ひとつ、アジア言語ひとつの3言語の素養をもつ必要があると思います。それで、「韓国語もおもしろいよ」と言ったんです。勧めたというより、ただそう言っただけなんですけど

担任教師の一言が、生徒たちにそれまで目に入っていなかった、未知なる世界への扉を開けさせたのである。きっかけとは、得てしてこのようなものだが、実はそこに、「さらなるもの」を志向するという、教育にとって、人にとって本来の哲学が内包されていた。

このように、高校における韓国朝鮮語教育の基盤は、けっして確固たるものではないが、困難な中であって、少しでも充実した授業を実現しようとする教師たちの努力が、むしろ豊かな成果を生み出してきたともいえる。

3 韓国朝鮮語授業の実際

韓国朝鮮語は、その学習にあたって、固有の文字と発音を習得しなければならぬ言語の一つである。知らない者にとっては紋様にししか見えないハングルだが、その表音文字としての仕組みを理解することは、実はさほど難しくない。ただ、日本語にない、あるいは日本語では区別をしない音が多く存在し、その習得には一定の時間を必要とする。

一方、文法は日本語と近似し、「日本語話者にとって比較的学びやすい言葉」と言われる。しかし、音節が子音で終わることが多いうえに、音の変化が頻繁におこるため、「目にやさしく、耳にむずかしい」ということにもなる。「やさしいと思ったのに、実はむずかしかった」のではなく、「むずかしいけれど、やっぱりおもしろい」と思えるように、教師たちは、学習事項の提示に日々工夫を重ねている。

調理実習や伝統芸能の体験なども行う。言葉が文化の結晶だとすれば、このような背景的な文化学習が、言語教育のなかで重要な位置を占めるのは当然といえる。さらには、韓国朝鮮語を母国語とする朝鮮半島の

人々、あるいは在日朝鮮韓国人について知り理解するために、日本と韓国朝鮮の関係史について学ぶ時間をとることも多い。

隣りあうがゆえ密接な関係があった韓国朝鮮の言葉を学習するにあたって、光も影もふくめその歴史に触れることは、これまた自然なことなのである。これらを1年間50時間という限られた時間に盛り込んでいくのが、高校における韓国朝鮮語教育の最大公約数的な像といえよう。

4 韓国朝鮮語教育の意義

そもそも教師は、授業をとおして何を生徒に伝えようとするのか、といった課題を問うことは、本来すべての学習活動に必須なものである。しかしながら、既存の教科科目の場合、ともすれば看過しがちである。

ひるがえって韓国朝鮮語は、その必要性を認識した者によって“無”からつくられてきたために、その意義に関する議論が、むしろ先行してきたといえよう。そして、先に見た導入の主たる契機と、教師の韓国朝鮮語教育観を変数としながら、多様で豊かな授業が展開されているのである。

①人権教育型 「明日からの授業のうちに「朝鮮語」が取り入れられ、全クラスそれぞれに週2時間「朝鮮語」学習が始まります。突然のことで驚かれています。諸君もあろうかと思いますが」と始まるのは、1973年度に朝鮮語を導入した兵庫県立湊川高校が、それに先立って配布した、「生徒のみなさんへ」と題する文章である。

15年に及ぶ解放教育の流れのなかで、在日朝鮮人生徒について「朝鮮名」により校内で実在させることに踏み切った経緯を説明した後、「『朝鮮語』を素直に発音をし、学ぶことを通して、他のすべての民族に対して、とりわけ朝鮮民族に対して、下から上へでもなく、上から下へでもない水平の関係で相手を見ることができ、純良な『日本人』を形成するための新しい第一歩を始めたいと思います」と、韓国朝鮮語教育のめざすところを述べている。

同様なかたちでの韓国朝鮮語教育が、兵庫大阪、広島地区、そして東京の学校に少しずつ広がっていく。

教員(大阪): 語学を通して朝鮮の文化を理解できる

ようにつとめている。大阪の地域性を考えると、語学教育は偏見をなくし正しい朝鮮認識を持つ大切な教科である

教員(広島): 朝鮮の文字・文化を知ることによって朝日両国の理解を深め、とりわけ在日朝鮮人に対する差別意識と偏見を是正する。21世紀に生きる若者に国際化時代に対応できる民族共存意識を育てる在日韓国朝鮮人が多数居住し、かつ日本人と日常的に接する「大阪や広島の地域性」からみて、「在日朝鮮人に対する差別意識と偏見を是正」することが、切実にもとめられていたのである。

湊川高校で初代教鞭をとった金時鐘氏は、朝鮮語の開講について語ったときの、「わしらに何せえいうんじゃ!」という生徒の叫びに対して、「びっしり組み込まれている日本の教育システム百年の中へ、承知で入ろうとする軋みの音」と表現している。必修科目として導入された朝鮮語の授業に出くわした生徒と大人たちの、反発とも戸惑いともとれるこの反応は、歪んだ構造物を建て直すための“軋み”であったのかもしれない。

教員(大阪): 在日朝鮮人の歴史的背景、その約8割が日本の学校に通っている現実を考えれば、日本の公教育の場において彼らが自分の国の言葉、歴史、文化等を学ぶ機会を保障する必要がある。

そしてそれは、日本人生徒に朝鮮文化を理解してもらうだけではなく、「在日朝鮮人生徒には民族の言葉を取り戻す機会を保障する」ことによって、在日韓国朝鮮人としてのアイデンティティー回復の契機としようとするものでもあった。

教員(大阪): ある年、韓国朝鮮語選択者の中に通名で通っている在日の生徒がいました。その生徒が在日だというのは、担任の先生から聞いて知っていたのですが、授業を受けるようになって、(自分が)在日である事をみるみる肯定的に考えるようになり、授業では、私が本名で呼ぶ事を許してくれたんです。……今まで在日であることを明かすことがなかった生徒が、です。しかも、個人的に呼んで話しをした結果ではなく、授業を通じて目覚めてくれたのです。そういう意味では、やっぱり在日である教員が教壇にたっていた力が大きかったのだと思うのです。

本名を名乗る怖さ、それは私も経験しています。でも、あつけらかんと(?)本名を名乗る教師がいて……まわりの日本人の友達も勉強しておもしろいという、そういう環境にいれば、心強いでしょう。

名乗る怖さ」の経験ゆえに「あつけらかんと本名を名乗る」在日の教師。その教師の授業で机を並べる日本人の友だちが韓国朝鮮語をおもしろがり、ひとつの文化としてためらいなく受け入れているのを見ながら、それがとりもなおさず、その言葉を母国語とする自分を認めてくれることでもあるということを感じとった在日の生徒がいた。

日本の学校に通う在日の生徒が本名を名乗る取り組みは、様々に展開されている。ところが、ようやく本名を名乗った友人に、「気にしないから、がんばって」と、“やさしく”言葉をかけたという例は、枚挙に暇がない。無理解な“やさしさ”は、ときに人をひどく傷つける。

生徒(神奈川): 初めてハングル語を習って、書いたり話したりしているうちに、だんだん親近感がわいてきた。前までは絶対に使いたくない言葉のひとつに入っていたと思う……横浜でチマチョゴリ着てる女の子たちが「アンニョン」って言ってるのを聞いたのはビックリした。何か通りすぎただけなのに耳に入ってきて、もしハングル語なんかやってなかったら何も気づかずに通りすぎているんだろうな、と思う……韓国のプリクラってどんなのだろう。いちど行ってみたい。

それまで、目にはしても近づくことのなかった朝鮮高校生。しかし、彼女は「アンニョン」という音を直接耳で聴き、かつそれを「書いたり話したりしているうちに、だんだん親近感がわいてきた」朝鮮語の意味のある単語として認識した時、在日の高校生の存在を初めて自分自身の力で受けとめ、また外国としての韓国への好奇心を触媒として、日本人と在日との間の心理的距離の意味を知ったのではないだろうか。

彼女は、在日の高校生を「気にしない」のではなく、きちんと「気づいた」。そのような心の化学変化の“場”が、「前までは絶対に使いたくなかったが選択した、韓国朝鮮語の学習だったのである。

②韓国交流型 近年、同年代の者との交流プログラムを組み込んだ海外修学旅行が注目を浴びている。とりわけ、距離的に近い隣国韓国への修学旅行は、もはや

めずらしいことではなくなった。

生徒(岩手):修学旅行で韓国に行く私たちにハングル語を教えてください、ありがとうございます。先生の授業はとてもわかりやすく、楽しかったです。

お蔭様で韓国では「アンニョンハセヨ」「カムサハムニダ」「マシッソヨ」などのような基本的なあいさつはいうことができましたし、お店の人に話しかけると「あなたうまいわねえ」と言われ驚きました。韓国の人たちは私の親が言うほど悪い人ばかりではなく、むしろいい人たちばかりでした。本当に心の温かい人たちなんだなあと実感しました。また韓国に行く機会があれば、もっと積極的に話しかけたいと思います。

海外旅行に行く前に旅行会話を習う。だれもが思いつくことである。しかし、せっかく覚えたあいさつも、いざとなると口に出せない。「あなたうまいわねえ」と言われるほど「お店の人に話しかけ」ることができたのは、「とてもわかりやすく、楽しかった」授業のせいではなかったか。「基本的なあいさつはいうことができ」なくて、「韓国の人たちは私の親が言うほど悪い人ばかりではない」ことを実感できたのだろうか。

このように、限られた事前学習ではあっても、方法次第で大変効果のある韓国朝鮮語学習を、授業に取り入れることの意義は大きい。韓国修学旅行が普及の兆しを見せていた80年代中葉、これとあわせていち早く韓国朝鮮語教育を導入した学校があった。山形城北女子高校も、そうしたケースのひとつである。

教員(山形):国際交流は、様々な異文化との邂逅を重ねながらも、まずは足元から、お隣同士から堅固な絆を、という発端に立脚したものです。二千年にわたり、歴史文化的に緊密な関わりを結んできた隣国どうしであり、同じ北東アジア圏の不可欠のパートナーである韓国との交わりが出発点であり……近現代史に大きな溝をつくってしまった時代の過ちを忘れることなく、友好の明日を築くためには、若い世代が相互に知り合い、触れあい、理解を深める機会を豊富に持たなければならぬという……今も本校の国際交流の基本理念となっています。

同校では、フランス語と韓国語のうちひとつを選択し、合計4単位を2か年にわたって履修する。入学前からそ

の趣旨を周知しているため、よくみられるように韓国朝鮮語の選択者が極端に少ないということはなく、途中で興味を失ったり、学習に消極的になるケースは皆無という。

教員(山形):現在の日本社会では、高校時代に韓国語に少なからず触れる機会を得ること自体、貴重な体験となります……姉妹校生とカタコトながら、実践の機会に恵まれていることが幸いです。

同校では、姉妹校である正義女子高校からの短期研修生も受け入れている。継続的な文通と生徒の相互訪問、そして言葉の学習が有機的に結びついて、濃度の高い交流が成し遂げられているのである。まさに、学校ぐるみで取り組んでいる。

生徒(大阪):ペンパルが話している韓国語はとてもかわいかった。韓国語を習っていてよかったと心からおもった。私が韓国語で話し掛けたらペンパルはとても喜んでくれてうれしかった。もっと韓国語頑張ると約束した。他の第2外国語を取ってる子から、とてもうらやましがられて、ちょっと優越感にひたつた。

同様に、修学旅行でペンパルを訪ねたこの生徒は、ペンパルが発する言葉を「とてもかわいかった」という。彼女は、日頃習っている韓国語に愛着をいづく自分自身に今さらながらに気づき、そのことが「習っていてよかったと心から思」わせているのである。

そして、韓国語を解さない友人から「うらやましがられる経験が、達成感を飛躍的に高めている。「もっと韓国語頑張る」というのは、“より深く韓国を知りたい”ということであるとするならば、姉妹校の生徒との交流と韓国朝鮮語学習が、韓国文化という豊かな森のドアを開けたのではなかったか。

③国際理解教育型 韓国の民主化、およびソウルオリンピックを契機とする韓国の経済発展などの政治経済的变化を背景として、日韓交流が活発化し、隣国への関心が高まった90年代はまた、普通科と実業科からなる従来の高校教育の枠組み自体の見直し、さらには選択科目を増やす方向への教育課程のありかたの転換といった、高校教育の制度面における多様化の時期でもあった。

こうして、新設又は改編によって誕生した国際科や、普通科の外国語・国際関係コースのなかに、いわゆる第2外国語教育として、韓国朝鮮語が導入され始める。

先に見た、「人権教育型」、「韓国交流型」の韓国朝鮮語の学習が、同心円状に構成された学校教育の理念の、より中心に近くにあったのに対し、この時期に始まる韓国朝鮮語教育は、多様な選択肢のひとつとして、放射状をなす教育活動の一分野として位置付けられたものであったといえよう。韓国朝鮮語教育が学校全体に占める比重は軽くなった反面、多くの学校にひろく普及していくことになったのである。

教員(熊本): “英語” コースではなく、“国際” コースであるということから、第2外国語を設置することにした。その中でも近隣国であるアジア諸国のうち、韓国朝鮮語と中国語を開設した。

教員(広島): 国際科設置により、英語以外の外国語を履修させることで、言語の多様性を認識させようと考え、中国語・フランス語・マレー語とともに設置した。

いずれも、英語以外の外国語をおくことにより生徒の視野を広げようという点で共通し、アジア言語として中国語とともに導入される例が多い。また、英語以外の西洋言語も同時に導入するもの、またアジア言語として、東南アジア諸語まで視野に入れるケースなど、さらなる多様化を見せる。

90年代後半には、総合学科や単位制高校といった、まったく新しいタイプの高校が全国にひろがっていったが、選択制を基本とするこれらの新タイプ校に、韓国朝鮮語を含む多様な外国語教育が導入されるのは、もはや自然な流れであった。

教員(神奈川): 1995年、単位制高校として新開校。第2外国語として、西洋言語と共に、近隣アジアの言語を設置した。

教員(兵庫): 1997年、総合学科への改編にあたって、生徒一人ひとりが他者と異なる自己を確立することを教育目標の中心におき、国籍、民族、言語、文化などの違いを超えて外国籍の生徒を柔軟に受け入れるとともに、人権感覚に鋭敏な人間を育む学校づくりの一環として、韓国朝鮮語、中国語、ベトナム語、インドネシア語を設置……

一方、上記のような学校組織の改編を伴わず、既存の教育課程の中に、多様な科目のひとつとして韓国朝鮮語を導入する学校もあらわれた。その際、韓国朝鮮語教

育に意義を認める教師個人が、学校全体を動かすことも、まれではなかった。1994年実施の学習指導要領において、「指導要領に示す教科や科目以外の教科、科目を設けることができるようになったこと背景として、韓国朝鮮語教育が一般化した時期といえよう。

教員(熊本): 国際理解教育の一手段である……日本人としてのアイデンティティを確立し、併せてアジア人としての自覚が必要。アジアの一員となるべき日本が近隣諸国と協調できなければ真のアジアの一員にはなれないし、生徒達の将来に幸せはない。

日本語と英語は当然だが、それにプラスしてアジアの言語は今後ますます必要となる。そのような観点から韓国語を通して相互の歴史・習慣、韓国人の考え方を教え、ひいてはアジア、世界へと目を向けることができる人材を育てる一助になれば、と考える。

教員(鳥取): 西欧言語の他にアジアの言語を、しかも一番近い国の言葉を学ぶことにより世界を見る眼がより複眼的になる……

国際理解とは、「世界を見る眼がより複眼的になる」ことであり、その第一歩は隣国理解、アジア理解からという見解は広く共通する。「英語は当然」としながら、「それにプラスしてアジアの言語は今後ますます必要となる」という。国際共通語として、ある意味で英米文化から切り離された英語に比べると、異文化理解をとおした国際理解教育としての意味合いを、より濃厚に帯びているのである。

生徒(大阪): 今まで2年間韓国語を習ってきて僕は何一つ身につけていないと思います。文法もちゃんかんぶんだし発音だって満足にできない。いったい何をやってきたんだろうとってしまいます。でも、この2年間で僕のまわりの世界が変わったと言うか、僕の考え方が広がったと言うか、韓国という一番近い国を足がかりに、世界に目を向けるようになった。そのことが2年間の集大成だと思う。

自分は「何一つ身につけていない」と振り返る謙虚さは、韓国朝鮮語学習に真摯であったことを物語っている。その彼が、「韓国という一番近い国を足がかりに、世界に目を向けるようになり、「自分のまわりの世界が変わって見え、「考え方が広がった」という。

教員(北海道):ほとんど知らなかった韓国や韓国語を知ることができるという意味で、生徒は大きな興味を示す。韓国を理解すると同時に、自分の視野の狭さを自覚するようです。

生徒(愛媛):むずかしかったけど、韓国の人々の文化などについて考えさせられたので、今後はもっと違う国の文化にも興味をもっていけるとおもう。

「ほとんど知らないでいた韓国や韓国語を知る」というショックが、生徒の心に“地殻変動”を起こし、「もっと違う国の文化にも興味をも」つきっかけをつくっている。

生徒(岩手):万国共通語と言われている英語を勉強して6年目ですが、少ししか話すことができません。受験のためだけに勉強してきた気がします。英語は確かに好きな科目ですが、ハングルを勉強するようになってから、隣の国なのに、何も知らなかった韓国が、とても身近に感じることができました。

中学のころまでには、外国人というついでにアメリカ人を想像してしまう私でしたが、今では韓国人が浮かんできます。TVで韓国人が話しても、以前は聞こえなかったのに、今では集中して聞いてしまいます。たとえ、少ししか聞き取れなくてもとても嬉しくなります。ハングルを習って、また別の世界が開けた気がするし……私がハングルを勉強していることを不思議がる人たちにも、韓国のことをもっと知ってもらいたいと思います。魅力のある国は、アメリカだけではないのです。

「外国人というついでにアメリカ人を想像してしま」っていた英語好きな彼女は、韓国朝鮮語の授業をとおして「また別の世界が開けた気がする」という。それはおそらく、「TVで韓国人が話して」いるのを思わず「集中して聞いてしまい」、「たとえ、少ししか聞き取れなくてもとても嬉しくな」という、心の躍動をとおしてこそ可能だった。

生徒(岩手):私が始めたきっかけも……そして、ぱっと見ただけでは到底文字には見えない、あの言葉を読んでみたいという気持ちがあったからであり、初めてあの記号が文字に見えたときは本当に嬉しかったものだった。外国語学系として英語を習い、英語だけで高校生活が終わるのかと思っていたけれど、2年生のときにハングルと出会い、どんだんのめり込ん

でいった。この飽きっぽい私が2年間も嫌がらずに続けてこられたのは、やはりハングルにそれ相応の魅力があったからだろう。

ハングルが備える「それ相応の魅力」、それは「ぱっと見ただけでは到底文字には見えない」「あの記号が文字に見えたとき」の感動とともに生徒の体内に記憶される。

生徒(鹿児島):韓国語を第2外国語として選んだのは、先生に簡単だと聞いたからです。しかし実際韓国語の授業を受けてみると、先生は何を言っているのか全くわからないし、文字は暗号みたいに棒や丸がたくさんという状態でした。だからまず文字を覚えていきました。一応文字を読めるようになった時気付いたんですけど、韓国語はひらがな、もしくはひらがなを少し難しくしたぐらいなんです。だからこの文字さえ覚えれば、すぐ上達するんじゃないかってぐらいです。

「暗号みたいに棒や丸がたくさん」で戸惑っていた彼の目に、ある日それが、ひらがなとかわからない文字にみえてくる、その“気付き”が、「すぐ上達するんじゃないか」という期待感を与えている。その期待感は、「簡単だと聞いた」韓国語が実際はむずかしかったという壁を乗り越えた自信に裏打ちされることによって、学びへの勇氣に育っていく。

教員(東京):第一には、外国語は英語だけではないことです。日本語のセンスで覚えられる外国語の存在を体験してもらい、英語で失った外国語への自信を取り戻してもらえれば……と同時に日本語が決して特殊な言語ではないことも感じてもらえればと思います。

生徒(鹿児島):難しいとはいえ、語順は日本語と同じなのだから、いくつか単語さえ覚えてしまえば1人でも文が作れる楽しさ……高校で1番自分のものになったと言える教科である。

単線的な外国語観の相対化によって期待される、外国語学習に対する自信の回復は、「語順は日本語と同じなのだから」「1人でも文ができてしまうという楽しさ」を感じ、「日本語のセンスで覚えられる外国語の存在を体験」することで、より効果的に達成された。

生徒(大阪):でも、韓国朝鮮語を習ったことで、日

本語の面白いところも発見できたわね。

生徒(大阪): 私は、日本語でも「ん」の発音の仕方が違うって知って驚いた。

教員(岩手): 韓国語を勉強するという事は、実は日本語を習いなおすようなところがありますね。日本語と驚くほど似ていて、でも違うところがあるので、「日本語って、こうだったのか」というように自分の言葉がわかる。外国語を勉強するという事は、自分自身を知ることではないでしょうか。

「日本語の面白いところも発見」して、驚く生徒たち。発見の「驚き」とは、「喜び」と同義語である。「日本語でも“ん”の発音の仕方が違う」などということが、ふつう高校生の関心の対象になりうるだろうか。何の苦労もなく体得した母語、これをあらためて見つめなおす機会は、めったにあることではない。

思いがけなく覗き込んだ自分の姿を鮮明に映し出してくれる合わせ鏡、それが韓国朝鮮語だったのである。しかし、鏡に映った自らの姿を見るためには、まず鏡そのものを真正面から覗き込まなければならぬ。それは、韓国朝鮮語授業をとおして鏡である隣国を見据える作業でもある。

隣国と日本とのあいだには、いまだ解決され得ていない、近代以降の歴史の、負の遺産というべきものが存在する。これを解消しようとする誠実な取り組みが、各方面で積み重ねられてきた。とりわけ歴史教育の分野では80年代以降、日本にとって負の部分も直視しようとする実践が盛んになった。その結果、多くの人々が、朝鮮半島を植民地支配したという“事実”については、一定の知識をもった。

生徒(大阪): まったく知らない隣の国。私が生まれる前のことなんて、なおさらわかんない。何が起きて、それがどうなって現在に影響しているかなんて、教科書でテスト前にパラパラってめくっただけ。チマ・チョゴリとキムチと38度線の国。それだけ？否。もっとたくさんある。

それをただつめこむのではなくて、ゲームをしたり、映画を見たり、民謡や流行の歌を歌う。直接触れてみる、肌で感じてみる。外国語や異文化を学ぶ上で、そういう経験をしてみると、少し、その事情がわかるかもしれない。

「何が起きて、それがどうなって現在に影響しているか」という歴史は、とりあえず習っている。でも、その結果残った「チマ・チョゴリとキムチと38度線の国」というイメージが、実は“平面的な”隣国観であったということ、「それをただつめこむのではなくて」、「直接触れてみる、肌で感じてみる」て、初めて知っている。「教科書でテスト前にパラパラってめくっただけ」では、やはりどこかで「それだけ？」という心のつぶやきが聞こえてくるのだ。しかし、「否。もっとたくさんある」ことに気づき、隣国の像が“立体的”に浮かび上がってくる、そんなきっかけが、韓国朝鮮語の授業にあった。

生徒(神奈川): ハングル勉強してるから、たまにわかる言葉とかあったりしておもしろかった。チゲとか。……「強制連行」について私も知らなかった。日本はなんで過去のあやまちを次に伝えないんだろう。ひきょう者だよ。なにも知らないでほほんと外国旅行にいったりして。

劇画作品中、随所にでてくるハングルを読めたことが、そんな彼女の中に歴史的事実をも正視しようとする作者のメッセージを“立体的に”受け入れる土壌を作り出している。

日本語を習う韓国の高校生とアニメ「螢の墓」を用いた授業交流を行ってきたある生徒は、相手の高校生が自ら旧従軍慰安婦に取材したビデオレターに、こう答えている。

生徒(長野): このVTRを見て、私も今まで韓国に持っていた単なる「被支配者」側の国と言うイメージを改めて考え直された。過去のことについては、歴史の授業の中で少し取り扱われるので、おおよそのことは知っているつもりでだったけど……ハングルの習うことによって韓国という国に興味をもつことができよかったですと思っている。

最初はあまり関心がなく、別に知ろうとしなくてもよいと思っていた隣の国のことが、その言葉を学ぶことによってもっと知りたいと思うようになり、それと同時に自分の視野も広がったような気がする。

教員(東京): 数年前、韓国の慶州を訪れて、その歴史の奥深さを感じました。そういう韓国の文化を、韓国朝鮮を少し下に見る感情が、日本人にあるのが気になります。ただ、そのことを生徒に言っても理屈

だけでは伝わらない。そこで、現地の言葉でコミュニケーションをすることで、その文化の奥深さを感じてもらえるのではないかと思ったのです。

すでにあつたフランス語やドイツ語に加えて、韓国朝鮮語の講座を開設するべく奔走したある国語教師がこう意図したように、「理屈だけでは伝わらない」かもしれない、「最初はあまり関心がなく、別に知ろうとしなくてもよいと思っていた隣の国の」「奥深」い何ものかを、「現地の言葉でじかにコミュニケーションをすることで」つかんだ生徒たちが、ここにいる。人の息吹きによって、歴史教育の成果に命が宿ったのである。

教員(埼玉):私は初めから日本の朝鮮侵略や在日についての話は、たまにすることはあっても、中心は言語教育に置いています。これは外国語の授業ですから、少しでも多く身につけてもらいたいです。

社会教育的なことはそれで大事ですが、今度は朝鮮語自体も暗いイメージ、特殊な言語のようなイメージになってしまうような気がします。むしろその「普通さ」を感じて欲しい。バカにもしないけど、尊敬もしない、朝鮮語もイギリス語も日本語も同じように「言語なんだ」と思って欲しいので、言語習得に集中しています。

生徒(神奈川):読むのはだいたいできてきたけれど、その通りに言えない。前は、なんとなく韓国の人をさけてたけれど、2カ月ぐらいこの勉強をして、考えたのは全然ちがっていてびっくりした。(略)音楽とかビデオとかをもっといっぱい見たい。それで韓国のことをちゃんと理解したい。

この生徒は、「朝鮮侵略や在日についての話」をどくに聞いたわけではない。しかし、それまで知らなかった、「なんとなくさけていた韓国の人」との距離を一挙に縮めている。そして、そんな自分に驚き、もっと知りたがっている。

それは、小学生よろしく練習帳のます目をハンゲルで埋めながら、授業中には久しく出したことのない大きな声で“ア、ヤ、オ、ヨ”とやりながら、あるいは韓国の若者の聴くポップスに耳を傾けながら、「朝鮮語もイギリス語も日本語も同じように言語」であることを感じたところからではなかったか。

5 学ぶときめき

生徒(神奈川):文字がローマ字みたいだし、単語の発音も日本語に似ていて他の言葉にくらべて全然おぼえやすい。それになによりやってみて楽しい。

生徒(神奈川):ハンゲルは日本語の文法とよく似ていてわかりやすい。英語なんか習うよりハンゲルをもっと前から習ってたほうがよかった。ひさしぶりに興味をもてる授業だった。発音がむずかしい。

ほかの選択科目の抽選に落ちた彼らが、難しいながらも「ひさしぶりに興味を持って」、 「なによりやってみて楽しい」という。1日の学校生活の、ほとんど大部分を占める授業の時間を“やり過ぎ”していた彼らの心の扉を、かすかに吹き始めた風が揺らしていた。

教員(岩手):毎年、何人かは卒業後も韓国語の勉強を続けています。(中略)韓国語に関心を示してくれる生徒は、英語に自信を無くした子や、英語や韓国語、両方とも頑張りたい生徒です。英語が難しくてついていけない生徒が、簡単な(?)韓国語に巡り合えて、少しずつ惚れてしまうような感じでしょうか。魅力溢れる韓国語の世界に!

教員(岩手):国際コースには、英語を勉強したい子が入ってきます。ただ、ほんとうにできる子はトップの進学校に行きますから、好きなだけどいまひとつできなくて、コンプレックスもある。そういう子の中に、韓国語に目覚めてとてものがんばる生徒が、毎年何人もいます。学力が若干低いのは否めませんが、とにかく生き生きとしているんです。

けっして韓国語が簡単なわけではない。「簡単だ」と感じさせるほど「魅力あふれる」存在に巡り合った、そういうことなのだ。また、英語を学ぶことを批判するでもない。生徒たちが、“もうひとつの選択”をすることで、久しく忘れていた学びの“ときめき”をとりもどしたことを記憶しておきたいのである。

生徒(大阪):本当に本当に楽しい2年間でした……この2年間は私のじまんです。こんなに「勉強が楽しい！」って思えたのは韓国語が初めてです。韓国語のテスト勉強をしてもまったく苦になりません。それくらい大好きです。……これからも後輩たちに楽しい授業をしてあげて下さいね! みんながもっともっと

韓国という国に興味を持って、好きになってくれたらなあって思います。

12年間の初等中等教育のなかで、「初めて」「楽しい!って思えた」授業に出会った彼女は、さらにその楽しさを、「みんな」に知らせてほしいと言う。彼女は、思いがけず手に入れた宝物が、実は他者と分かち合うことでより輝きを増すものであることを知っていた。

生徒(岩手): 韓国語を学んでよかったです。韓国のことがわかったし、ハングルの文字をおぼえるのは大変だけれど、なればたのしいと思いました。韓国語の勉強をしている自分は、何かふだんの自分とはちがくなって、いきいきしたり、楽しんでできるのでうれしいです……韓国語の勉強は楽しいので、大好きで～す!

「韓国語の勉強は楽しい」という彼女にとって、実はもっと嬉しかったのは自分が「何かふだんとはちが」い、「いきいきしたり、楽しんで」いることではなかったか。

6「平和の文化」の創造のために

国連は2000年を「平和の文化国連年」とした。94年からユネスコにより提唱された「平和の文化」とは、20世紀世界を蹂躪した「暴力の文化」を駆逐して、地上に実現すべき理念であり、国際理解教育の行く手を照らす“導きの星”ともいえよう。

このような新しい文化は、過去から継承された文化の批判的再創造によってこそ生み出される。ところが、いま生徒たちは、授業という場で行われる文化の継承を拒否している。それも、学級や授業のいわゆる“崩壊”というかたちというよりは、むしろ“成立”しているなかで、“粛々とした”拒否が蔓延しているところに、その深刻さがある。

目は前を向き、耳は開き、手は動いている。だが、心の扉はしまっている。まるで、首を下げて雨風がおさまるのを待つ罹災民か、あるいは感情を押し殺して解放を待つ収容者のように、教室から出て行く時をまっている。継承なくして新しい創造はありえない。

「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動」しようとする総合的学習が、そんな学校教育の再生の鍵として期待されている。そのた

めに、開発教育、人権教育等の分野で開発されてきた参加型学習プログラムが注目されている。参加型学習がこれほどに注目を集めているということは、いかに参加していないかを物語っている。

学びの過程に参加せず、授業をやり過ごす彼らは、そんな自分自身を傍観しながら、一日の大半の時間を過ごしているうちに、生きることそのものが他人事になってしまう。自らの傍観的なものが、どうして他者に関心を持ちうるだろうか。もはや彼らに、“導きの星”の輝きは目に入らず、それを見上げることさえ忘れる。

ひるがえって、韓国朝鮮語を学んだ生徒たちは、けっしてやさしくはないその学びの過程で“ときめいて”いた。かれらは、新しい言葉を学ぶことで、新しい世界を知った。そして、その新しい世界を知った、きのうまでの自分とはちがう今日の自分がいた。それは、明日はもっとちがう自分でありうるという可能性を、素直に信頼できる自分でもあった。

長野五輪聖火リレーの最終走者をつとめたクリス・ムーンは、地雷を踏んで片足を失った義足をつけた自分が走ることで、『限界』という概念で自分を縛り、簡単にあきらめるのはやめよう。限界に挑戦することがいかに素晴らしく、自分を、世界を、可能性に満ちたものに愛えていけるかというメッセージを世界中の人に伝えてくれた。

韓国朝鮮語を学んだ生徒たちは、限界に挑戦しようとしたわけではなかった。ほんのすこし、手を伸ばしただけだった。だがそこには、どうして今の今まで知らなかったのか、と歎息するほど、魅力にあふれたものがあつた。ひよんな拍子に心の扉を開けてみたら、外の空気のなんとさわやかなことか。授業って、勉強って、なんだこんなにおもしろかったんだ、と気づき、それを身体に記憶していた。そして、知らぬ間に限界を越えてしまった自分に驚き、もしかしたら、もっといろいろなことができるかもしれないと、ときめいていた。

「朝鮮語してなにせえいうんじゃ」という湊川の青年の叫びに対する答えは、以後30年間にわたる、教師と生徒たちの教えと学びの成果のなかにあつた。生徒は、言葉を知り、自分に出会っていた。そう、可能性に満ち、信頼するに能う自分自身に。「人間として生

きるとは、他者との関わりを引き受けることだ」という。

彼らは、韓国朝鮮語を「素直に発音する」ことで未知の自分を知り、実は隣り合っていた在日の友人との関わりはもちろんのこと、日本と韓国朝鮮の、自分と世界との、そしてあらゆる他者との関わりを引き受ける力を得ていたのだ。あの夏の日、教師たちの胸に去来した「もうひとりではない」という昂りも、実は、自分たちが意図した以上の世界を切り開いていく、可能性に満ちた生徒たちとの出会いの予感ではなかったか。

生徒(神奈川): 貴重な経験ができてとても勉強になりました。もっと、いっぱいを知りたいのに、授業が終わりなんてさびしいです。大学や専門学校に行っても続けたい……自分から勉強しようという気になれて、とても楽しかったです。

生徒(神奈川): 本当にやって良かった。これからも、どうにかして勉強して、もっとはなせるようになります。私は、ずっと勉強し続けます。ありがとう先生!!

韓国朝鮮語の学舎を巣立った彼らとわれわれとは、もはや教師と生徒ではない。ともに教え学ぶ、同伴者になるのだ。20世紀が幕を降ろそうとする時期に、韓国朝鮮語教育にたずさわる者が結集したことは、やはり偶然ではなかった。

週30時間のうちわずか2時間、全国五千余の高校のうち200校足らず、400万人の高校生のうちわずか四千人に過ぎない。しかし、ドーバーの海底の道も、先導坑なくして兩岸を結ぶことはできなかった。今学校教育の再生にとってもっとも焦眉の課題となっている“学びのときめきの復活”を、すでに自らのものとしようとしている教師と生徒たちは、細くではあるが確実に、ともに手を携えてその道を掘り進んでいこう。

韓国朝鮮語教育にかかわった者が、21世紀に築くべきあたらしい文化の担い手となることを確信しつつ、筆を置く。

[本文中の引用文は、インタビュー、アンケート調査の他、書籍・パンフレットからの引用です。それぞれの冒頭に下線を付し、教員・生徒の別と学校の所在する県名を記しました。]

■東北とく朝鮮>とわたし

小栗 章

東京で少年期を送った私は、高校生の二年間を水沢という地方都市で過ごした。そこは、いくら入り込もうとしても入ることができない、はっきりと壁を感じさせる世界だった。東北の風景と人々が外部の者の侵入を阻んでいるように見えた。

人々の容姿はさほど変わらないが、顔の表情や衣類の色合いなど少し違って見えた。訛りの強いことばは聞き取れなかったし、あまり抑揚のない話し方は耳になじむことがなかった。東京弁を笑われることもあった。水沢にいるあいだ、つねに「よそ者」扱いされたように感じ、東京をなつかしむ思いが高じていった。

キョンイルとの出会い

そんな私に近づいてきたキョンイル。父親がく朝鮮人>だといった。日本がアメリカとの戦争に突入したころ日本にきて、戦後まもなく日本人女性と結婚した。岩手県南部の農村にキョンイルの母方の実家があり、彼の両親は戦後の混乱期を経てそこに移り住んだ。彼はそこで生まれ育った。

私は、父親の転勤にともなって水沢に引越し、同級生のキョンイルと知り合った。二人は健康上の理由で一年のあいだ体育の授業に出席できなかった。ほかの生徒がサッカーやラグビーに興じるのを見ながら、おたがいの幼少期や家族のことを話すようになった。

キョンイルの父親は一年のほとんどを出稼ぎで過ごした。彼が中学生のころから、父親が帰ってくるたびに母親とのいさかいが絶えなくなり、しだいに家で過ごすのを嫌うようになった。高校に入ったころは、すでに家族との距離が生じていた。いつか家を出ることを考えているようだった。だから、東京からやってきた私に親近感を抱いたのだろう。だが、彼が近づいてきたほど、私は近づこうとしなかった。近づけなかった。彼にしみついた岩手やく朝鮮>にまつわるものが阻んだのではない。私のなかの何かが近づけさせなかった。三年生になる春に転校して東京に戻ると、彼のことは忘れてしまった。

大学一年の夏、キョンイルが何の前ぶれもなく訪ねてきた。高校のときから教員になると決めていた彼は、前年に北海道の教員養成大学に入っていた。二年ぶりの再会だった。東北路を自転車でやってきた彼はすっかり日焼けして、以前のひ弱さを見せなかった。顔をゆがめながら、とぎれがちに笑う声がひどくなつかしかった。

彼が帰ってからしばらく経つと、あんなに嫌っていた東北の風景や人々をなつかしく思っている自分に気づいた。東京に戻ってからも続いていた「よそ者」意識が、こんどは私を東北に近づけたのだ。

山のなかの彷徨

キョンイルと再会した翌年の夏、岩手を訪ね、彼の実家に一週間ほど滞在した。庭に一匹の白い犬が鎖につながれていた。ところどころ毛の抜け落ちた犬は弱々しくやせ細り、狂犬病の疑いもあった。

泊まって二日目、犬におびえる近所の人々の求めに応じて、保健所で処分することになった。だが、中学生のときからかわいがっていた彼はそれをいやがった。二人で相談した末、その夜人々が寝静まったあと、小雨が降るなか私たちは外に出た。やせ衰えた犬が吠えたり噛んだりしないように麻袋に入れ、どンドン山のなかに入ってしまった。

一夜明かすあいだ、小動物をどうするか話し合った。睡眠不足で変に頭の冴えた二人がたどりついた結論は、自分たちの手で犬の命を断つことだった。夜が明けるとすぐ、前の晩と同じように犬の入った袋を棒に吊るし、両端を手で支えながら山道を歩いた。昼近くまで歩きつづけたろう。二人とも腕が痛くなり、足に豆ができて、それ以上歩けなくなった。

麻袋をおろして道端に座りこみ、登ってきた方角を見おろすと、深く切りたった断崖が目に入った。その瞬間、二人で話し合ったわけではないが、どちらからともなく半ば衝動的に棒をはずして麻袋の両端をつかむと、崖っぷちに向かってありったけの力で放り投げた。谷底の方から麻袋が岩に当たったらしい鈍い音がした。誰もいない山あい、蟬の鳴き声だけが響いていた。

日没前には山を下った。途中ふり返って山の方を望むと、下弦の月が稜線に白く浮かんでいた。家に着く

やいなや、人々は待ち構えていたように犬のゆくえを尋ねた。山のなかで急に暴れ出し、逃げられたと答えた。誰もそれを信じていないようだったが、問いつめることはしなかった。その夜、二人は死んだように深い眠りに落ちた。数日後、私は東京に戻った。何日経っても、小動物の命を断ったことが頭から離れなかった。

大学を中退したころから、キョンイルを在日<朝鮮人>として意識するようになった。同時に、雪が降ると東北の雪景色を思うことが多くなった。当時は見向きする者もなかった<朝鮮語>の勉強に没頭したのもこのころだった。

ソウル郊外と東北の風景

二十三歳の冬、はじめてソウルに行った。空港近くの韓式旅館の窓から見た景色——赤土の道の遠くから、白いパジ・チョゴリを着た老人がいかにも<朝鮮>らしいゆったりした足どりで歩いてきた。道の先には、なだらかな山なみが窓枠からはみ出しそうに迫っていた。このときの光景が<朝鮮>の原風景になっている。それが、少年期の記憶にある遠く山々に囲まれた胆沢(いさわ)平野につながっている。

キョンイルに対して距離を感じながらも白い犬の殺害に手を貸した私は、共犯者であり加害者だった。岩手からも東京からも追われたように感じた私は被害者だった。罪悪感にさいなまれるようになってから、しだいに加害者の意識が強くなった。きわめて個人的な疎外感と加害者意識の裏側にある罪悪感がかさなったところに、私のなかで日本の東北と<朝鮮>の風景を結びつける下地ができていたと思う。

漠とした方角にすぎなかった<朝鮮>が、ぼんやりした風景となって像を結んだ。それが輪郭をはっきりさせるにつれて、少年期に刻まれた東北の風景にかさなった。韓族・朝鮮族の異名という白衣族と白い犬のイメージが結びつき、雪におゝわれた東北の山なみにつながったといってもよい。東北と<朝鮮>、ふたつの風景こそ私の心象の「ふるさと」なのだ。

(この稿では、<朝鮮>という語を使っている。<>を付けることで、現代の用法とは異なる、個人的体験や情感を込めた独自の用語であることを示そうとした)

高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク会則

1. 名称

本会の名称を「高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク」とする。韓国朝鮮語という用語は、日本においてハングル・韓国語・朝鮮語などと呼ばれている言語の総称として用いる。

2. 目的

本会は、日本の高等学校において韓国朝鮮語教育に携わる教職員間ならびに関心を有する者相互の情報交換をはかり、研修ならびに研究活動を通じて韓国朝鮮語教育の発展と充実に資することを目的とする。この目的に沿って、地域的なブロック単位の活動を基盤にしながら、全国的なネットワーク組織を構築し、維持することをめざす。

3. ブロックの地域区分と活動内容

全国を東日本（北海道、東北、関東甲信越）、西日本（北陸、東海、近畿、中国・四国の一部）、南日本（中国・四国の一部、九州、沖縄）の3ブロックに区分し、それぞれ拠点となる高等学校を選定して事務局を置く。各ブロックは、会員の要望と地域性に応じた独自の活動を展開することができる。

4. ブロックと全国ネットワークの事務局

各ブロック会員の互選により、ブロックごとに代表2名を選任する。代表の任期は1年とし、再任を妨げない。年度途中でブロック代表に欠員が生じた場合は、当該ブロック会員の協議に基づいて補充する。ブロック代表は、定例活動を通じてブロック内の会員間ネットワークを形成し、維持するとともに、他のブロックとの情報交換ならびに連携をはかる。

全国的なネットワークを維持するため、ブロック代表全員によって構成する全国ブロック代表者会議を設ける。当分の間、財団法人国際文化フォーラム内に全国ネットワークの事務局を設置し、事務局機能を担うこととする。

5. 事業内容

本会の事業内容を次のとおりとする。

(1) ブロックごとの定例活動の実施

- (2) ブロック総会ならびに全国ブロック交流会の開催
- (3) 共通教材の開発、ガイドラインの作成、教科書の作成などの事業の実施
- (4) 教育制度に関わる条件整備事業の実施
- (5) 関連団体との連携事業のほか、2.の目的達成のために必要な事業の実施
- (6) 会報の発行

6. 会員の資格と入会手続き

高等学校の韓国朝鮮語教育に携わる者および本会の目的に賛同する者は誰でも会員になることができる。また、本会の事業内容を充実させるため、個人または団体の賛助会員を置く。入会手続きは、所属するブロックの代表（事務局）または全国ネットワークの事務局を通じて行なう。

7. 会計と会計報告

本会の経費は会費、賛助会費ならびに寄付金でまかなう。会計年度は4月1日から翌年の3月31日までとする。会員は翌年度の年会費として3,000円を毎年3月末日までに納める。納入は、所属するブロックの代表（事務局）または全国ネットワークの事務局を通じて行なう。

会計監査は年度ごとに全国ブロック代表者会議が行い、会員に報告する。

8. ネットワーク全体に関わる事項の変更等

会則の変更または廃止、ブロック区分の変更、会費の変更など、ネットワーク全体の運営に関わる事項の変更等については、会員の要望をふまえながら、全国ブロック代表者会議の構成員の合意に基づいて行われる。変更された内容等は速やかに会員に知らせる。なお、本会則に定めのない事項については、全国ブロック代表者会議で協議を行い、同会議の構成員全員の合意に基づいて定める。

9. 本会の発足と会則の発効

本会は1999年8月19日、第2回高等学校韓国語教師研修会において発足した。本会則は各ブロックの承認を経て、1999年10月9日に発効した。

